

大阪民衆史研究会報

2024年8月号
第31巻第8号
(通巻347号)

発行 大阪民衆史研究会 (代表 林 耕二)

〒545-8585 大阪府東淀川区東長生2-1-10 大阪民衆史研究会 庶務部

例会等のお知らせ

◇大阪民衆史研究会 2024 年度総会

日時 9月1日(日) 午後1時半開場 2時開会 府教育会館 2F 鈴蘭の間

第一部 記念講演 午後2時開会

第二部 総会 午後3時半開会

記念講演 高島千代さん(副会長・関西学院大学法学部教員)

「秩父事件 140 年を迎えて—『革命』と『一揆』のあいだ」

今からちょうど140年前、1884(明治17)年の10月末日、埼玉県の西方、秩父盆地では、松方デフレのもと、高利貸しに対する負債をかかえた養蚕農民たちが武装し、金貸会社を襲撃しました。これが、世にいう「秩父事件」のはじまりです。その後、自由党員を含む3000余名の農民たち(「秩父困民党」)は、秩父郡下吉田村(現在の秩父市)の棕神社に集合し、そこから周辺町村の高利貸を打毀し、戸長役場に乱入して帳簿類を破棄、さらには警察署・裁判所を襲撃し秩父郡役所を占拠。その運動は11月9日、信州で軍隊に鎮圧されるまで続きました。秩父事件については、これまで「革命」から「百姓一揆」まで様々に位置づけられ、自由民権運動との思想的な関係が問われ続けてきましたが、140年目の今、秩父困民党に集った人々が何を思い、武装蜂起を選択したのか、改めて考えてみたいと思います。(記念講演《冒頭》には非会員でも参加できます。)

◇9月例会

日時 9月15日(日) 13時半開場、14時開会 府教育会館 3F 菊の間

報告 石原佳子さん(会員)

「『人』と地域の物語り、五代友厚の娘『杉村久子』日記から」

明治から大正へ。縦横に市電路が敷設され、川の街大阪が大きく変わる時代である。堺筋により南北の幹線道路ができ、そこへ南の大火が加わる。船場の住まいは軒切りにあい、夫は電鉄部長として街の変化をけん引する。日々の暮らし、友厚の娘として、また日記という存在など、さまざまな視点から読み解きたい。

参加費は会員 400円、非会員 500円